あぜ道
稲作技術情報
Ｎｏ．３５９（令和５年 No. ６）
令和５年７月５日
▼発　行▼
山本地域振興局農林部農業振興普及課

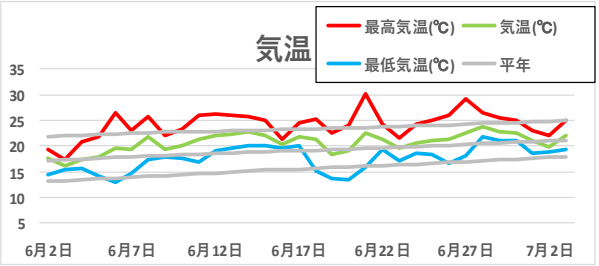
草丈長い　茎数少なめ

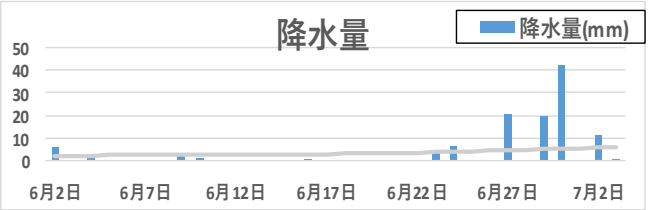
～確保した茎を活かす水管理と診断に基づいた適切な追肥を！～

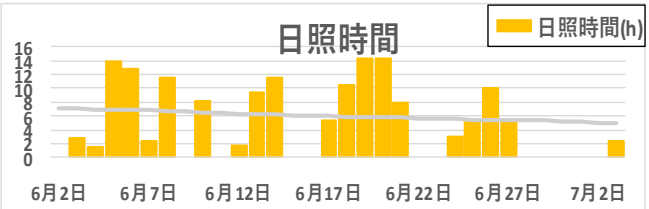
１　気象経過と生育状況

【気象経過】

これまでの気象経過（アメダスポイント：能代）







６月は最低気温が平年より高くなった日が多くなりました。また、下旬から現在まで日気温較差の小さい日が続きました。

日照時間は、上旬から27日まで平年より長い日が多くなりましたが、それ以降は降雨等により平年より短くなりました。

【生育状況】

７月５日現在の管内水稲定点調査ほ（９地点、品種：あきたこまち）の生育は**平年に比べ、草丈が長く、茎数がやや少なく、葉数がやや多く、葉色が平年よりやや濃いという**状況です。

草丈は、27日からの寡照により、長くなりました。

○定点調査結果（７月５日）

	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉数(葉)	葉色
本年	**58.9**	**501**	**10.4**	**45.8**
平年	51.3	525	10.2	44.0
前年	58.5	381	10.3	47.8
平年比較	**115%**	**95%**	**+0.2**	**104%**
前年比較	101%	131%	+0.1	96%

※平年は過去10カ年の平均値。葉色はSPAD-502で測定した値

茎数は、下旬から現在まで日気温較差が小さい日が続き、分げつの発生が緩慢になったため、やや少なくなっています。確保した茎を活かす水管理を行いましょう。

２　生育に応じた水管理

○幼穂形成期（幼穂長２mm期）を、発育モデルを用いて予測すると、あきたこまち（中苗）を５月20日に田植えした場合、平年値より３日早い７月12日と見込まれます。

○幼穂形成期に土壌水分が不足すると１穂着粒数が減少するため、**中干しは幼穂形成期までに終了します**。中干し後は稲体の活力維持のため間断かん水を基本とします。

○減数分裂期から穂ばらみ期にかけて、冷害の危険性がある低温（日平均気温20℃以

○幼穂形成期の予測（アメダス能代）

田植日	本　年	（平年値）
５月10日	７月６日	（７月10日）
５月15日	７月８日	（７月13日）
５月20日	７月12日	（７月15日）
５月25日	７月15日	（７月18日）

※中苗。７月４日以降は平年値を使用。

下、最低気温17℃以下）が予想される場合は、予め前歴深水処理（幼穂形成期頃から10日間程度、25℃程度の水を10cm位に保つ）で、低温対策を実施します。

◆カドミウム含有米の発生が懸念される地域では、間断かん水をせずに**出穂期前後３週間の計６週間（平年で７月15日頃～８月25日頃）は湛水管理を厳守してカドミウム吸収を抑制**してください。生育が早まっているほ場も見られるため、ほ場の生育状況を確認して、適期に水管理を行うようにしましょう。

３　あきたこまちの栄養診断

【栄養診断による追肥の判断】

○幼穂形成期の極端な葉色低下は、１穂着粒数の減少・有効茎歩合の低下を招きます。ほ場ごとに幼穂の発育状況と生育量を確認し、生育・栄養診断を必ず実施してください。

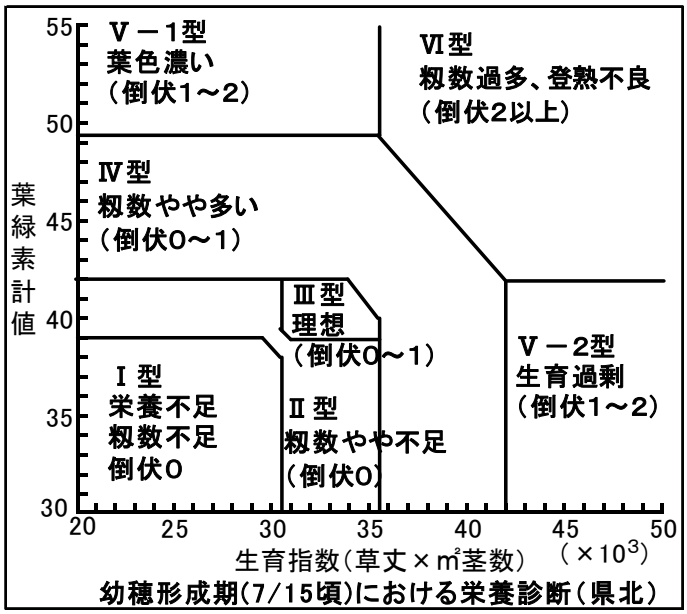
○幼穂形成期の草丈が62cm以上、葉色が42以上の場合、倒伏の危険性が高くなるので穂肥の施用を控えます。

○緩効性肥料や育苗箱全量施肥の場合は、この栄養診断は当てはまらないので注意してください。

幼穂形成期（11葉期頃）の理想生育量（県北）

	草丈（cm）	茎数（本/㎡）	葉数（葉）	葉色（SPAD値）	生育量（×10³）
上限値	62	586	11.0	42	35.6
理想値	60	552	10.8	40	33.0
下限値	57	519	10.6	39	30.5

※ 生育量は草丈×㎡当たり茎数。



幼穂形成期（7/15頃）における栄養診断（県北）

生育型	窒素追肥量(kg/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
Ⅰ型	2kg	2kg
Ⅱ型	2kg	2kg
Ⅲ型	ムラ直し1kg	2kg
Ⅳ型	なし	2kg
Ⅴ－1型	なし	ムラ直し1kg
Ⅴ－2型	なし	ムラ直し1kg
Ⅵ型	なし	なし

（注）目標収量570kg/10a、あきたこまち

４　主要病害虫の防除

【いもち病】

○病害虫防除所の発生予察情報によると、本年は平年よりも葉いもちの発生量がやや多いと予想されています。生育の遅れているほ場では、今後葉色が濃くなりいもち病への抵抗性が低下する恐れがあるので注意してください。

○ほ場の見回りにより早期発見に努め、病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス等）を散布してください。

【斑点米カメムシ類】

○病害虫防除所の発生予察情報によると、発生量は多いと予想されています。

○稲が出穂する15～10日前までに、畦畔や農道等を対象に地域で一斉に数回除草を行い、イネ科雑草の除去に努めてください。

○水田内にホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの残草があると、アカスジカスミカメの侵入を助長するので、水田内の雑草対策を徹底しましょう。

不明な点がある場合は、山本地域振興局農林部農業振興普及課（℡52-1241）までご連絡ください。